子どもの集団活動

- タイトル
  - 集団活動
- 基本文献
  - 田中治彦　学校外教育論
    - 図書
      学校外教育論, 補訂版
      著者名 田中治彦著
      出版 学陽書房 1991/5
      ISBN 4313611207
      所蔵 自動書庫 379.3/Ta84 一般資料
      状況 配架済
  - 書評から
    - ガリ勉じゃなかった人はなぜ高学歴・高収入で異性にモテるのか
      - 学校がすべてではない
      - 学校で学んだことしか知らないから・・
      - 学校以外の場で学んだことを人生にいかせる
    - つながりを煽られる子どもたち
      - 同調圧力によって自分らしさを失う
      - 集団活動の指導において留意する必要がある
      - 集団活動も必要だが、一人でいることも認めてあげる必要がある
    - ○×イラストでわかる! 小学校高学年女子の指導
      - 反抗期、気持ちがわかる
      - 同学年のグループが居場所の一つとして重要
    - 村尾泰弘『家裁調査官は見た―家族のしがらみ』
      - 子どもの気になる行動、行為
      - 家庭環境に影響されている
      - 家庭以外の場の指導者は認めてあげ、安定した関係を築く必要がある
    - いじめからは夢を持って逃げましょう！
    - 「学校」をつくり直す
    - 今こそ日本の学校に! イエナプラン実践ガイドブック
    - 日本を救う、[尖った人]を増やすには
- 目的
  - 集団活動で人はどう変わるか
    - 集団活動は苦手だが、人と関わりながら、集団の中で自分を発揮する。
    - 自分が変わる
      - 自信がつく
      - ○○ができるようになる
      - 周りから認められる
      - 受け入れるようになる
      - 視野が拡大する
  - 指導者のあり方を明らかにする
    - 自主的な集団活動
- 仮説
  - 継続的活動によって変容が見られる
    - そのときどきの「良い悪い」を追いかけるのではなく
    - 期間の長短
    - 集団の中で自分が変わる
    - 指導者も変わる
      - 子どもの変化と併走して自分も変わる
      - こういうきっかけで、こう変わる
  - 指導者の介入により、より望ましい変化になる
    - 喧嘩の場合は、すぐには介入しない
    - 手が出た場合は、止めて、話を聞く
    - 仲裁すべきか見守るべきか
    - ケンカの最終解決策は本人たちに委ねる
    - そのため、年齢により、代弁する、話し合わせたりする
    - 発達段階の知見
    - どういうときに失敗するか
  - 指導者が子どもをどう理解するかが重要
    - 喧嘩を見ても決めつけないで、当事者の話をよく聞く
    - 指導者自身の認識の変化　　こういう風に見えたけど、聞いてみたらこうだった
- 研究課題
  - 過去
    - 集団のプレッシャー
      - 発達・家庭環境によって、集団に溶け込めない
      - 相性が合わない、トラブル、言葉で表現できない
      - 新しいあり方を追求するときに重要な課題
    - 個性、自分らしさを育てることも同時に必要
    - 社会で求められるチームワーク
      - 「空気を読む」との違い
      - 集団活動の新しいあり方
      - とがった人材
      - 既成の概念にとらわれずに、チャレンジする
      - 子どもの遊びと共通している
    - 自主性を損なわない指導とは何か
      - クドバスの具体例
      - 留意事項
      - 否定しない、押し付けずに伸ばしていく
- 方法
  - 考察
    - 幼稚園教育との比較
    - コロナ禍の若者の分析
      - 交流の問題点
      - 異質の意見との交流
      - 個性を尊重し合う、異なりを受け入れ合う仲間関係
    - 社会教育の意義
  - 事例研究「幼児の野外レク活動」